マルチ機能を有する複合的な総合教育棟の再生

建物　外観写真

基本情報

大学名：愛媛大学
建物名：愛大ミューズ
工期：平成19年7月～平成21年3月
構造・階数：RC　地上３階
延床面積：９,０６２㎡

常設展示室

整備の方向性

○地域から信頼され、その期待に応えられる「地域にあって輝く大学」を目指す
・愛媛大学では、地域から信頼され、その期待に応えられる「地域にあって輝く大学」を目指しており、この中で地域と大学の広くいきいきとした双方向性の関係が求められていることから、ミュージアムというメディアを用いた情報発信拠点を創出する。

○大学と地域との新しいコミュニケーションの拠点を創る
・全学共用スペース部分に愛媛大学ミュージアムを整備し、学術研究成果の公開・発信を行い、地域との新しいコミュニケーションの拠点を形成するなどマルチな複合施設に再生する。

○大学が蓄積してきた様々な資料や研究成果を伝える
・一般の方々、特に若い世代に伝えることで、愛媛大学の研究に興味・関心を持ってもらう。

計画・設計上のポイント

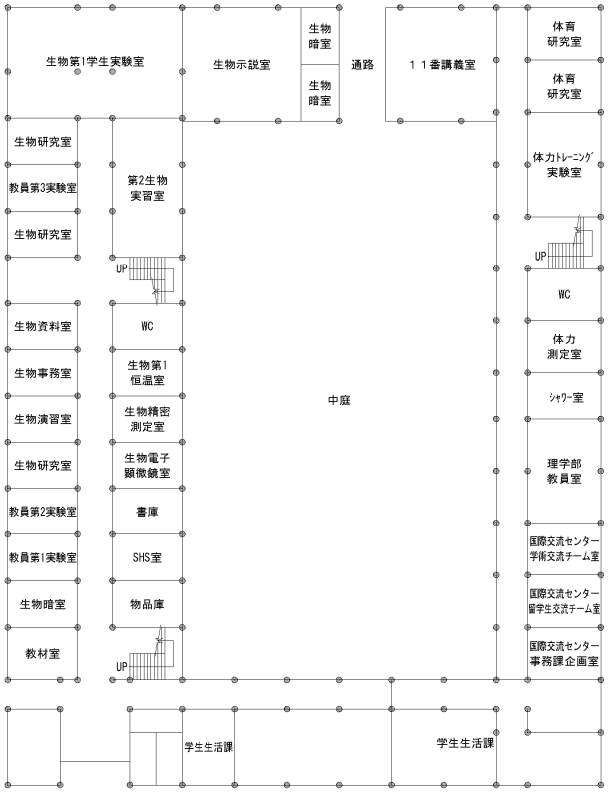
○全学スペースの再配置
・総合教育研究棟（旧共通教育管理棟）耐震改修工事に併せて、全学スペースの再配置を行い、ミュージアム、学生支援、総合健康センター、異文化交流、共通教育、全学共通のスペースに分けて整備。全学共用スペースとして創出した１階フロアの約1,320㎡を愛媛大学ミュージアムとして整備した。

○楽しくおもしろく学べる大学博物館の創出
・愛媛大学の学術研究活動に本格的な興味・関心をもってもらい、楽しくおもしろく学べる大学博物館を創出するために動線計画、ゾーニング計画、視線計画、照明計画、空調計画をミュージアムコーディネーター（特任教員）と共同で行った。
展示ゾーンは、進化する宇宙と地球、愛媛大学と愛媛の歴史、生命の多様性、人間の営み、昆虫標本収蔵展示室の５つの常設展示ゾーンと教育普及活動や地域貢献を目指した特別展・企画展などを提供する企画展示ゾーンから構成される。

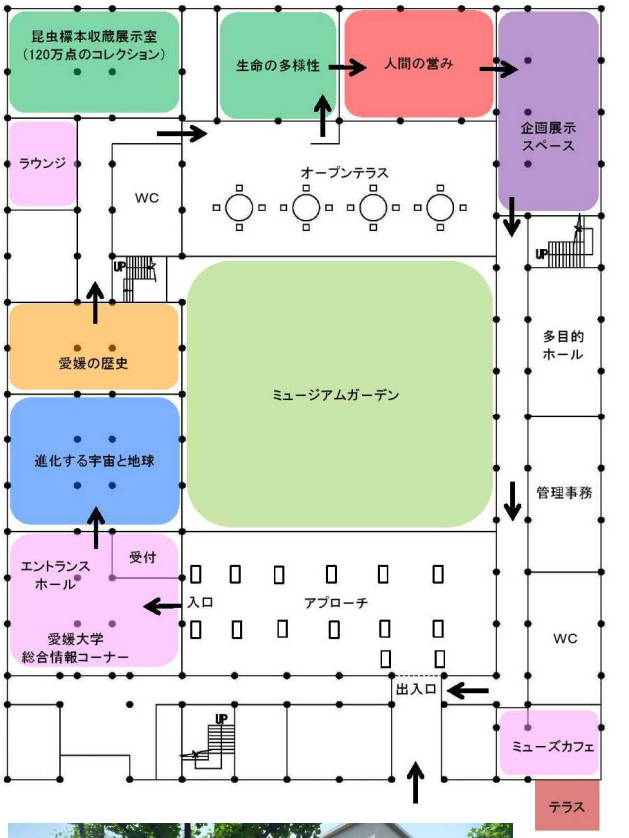
○中庭を取り込む
・あまり利用されていなかった中庭をミュージアムの中に取り込み、緑化（芝生広場）の整備を行い、心安らぐ景観の形成を図った。

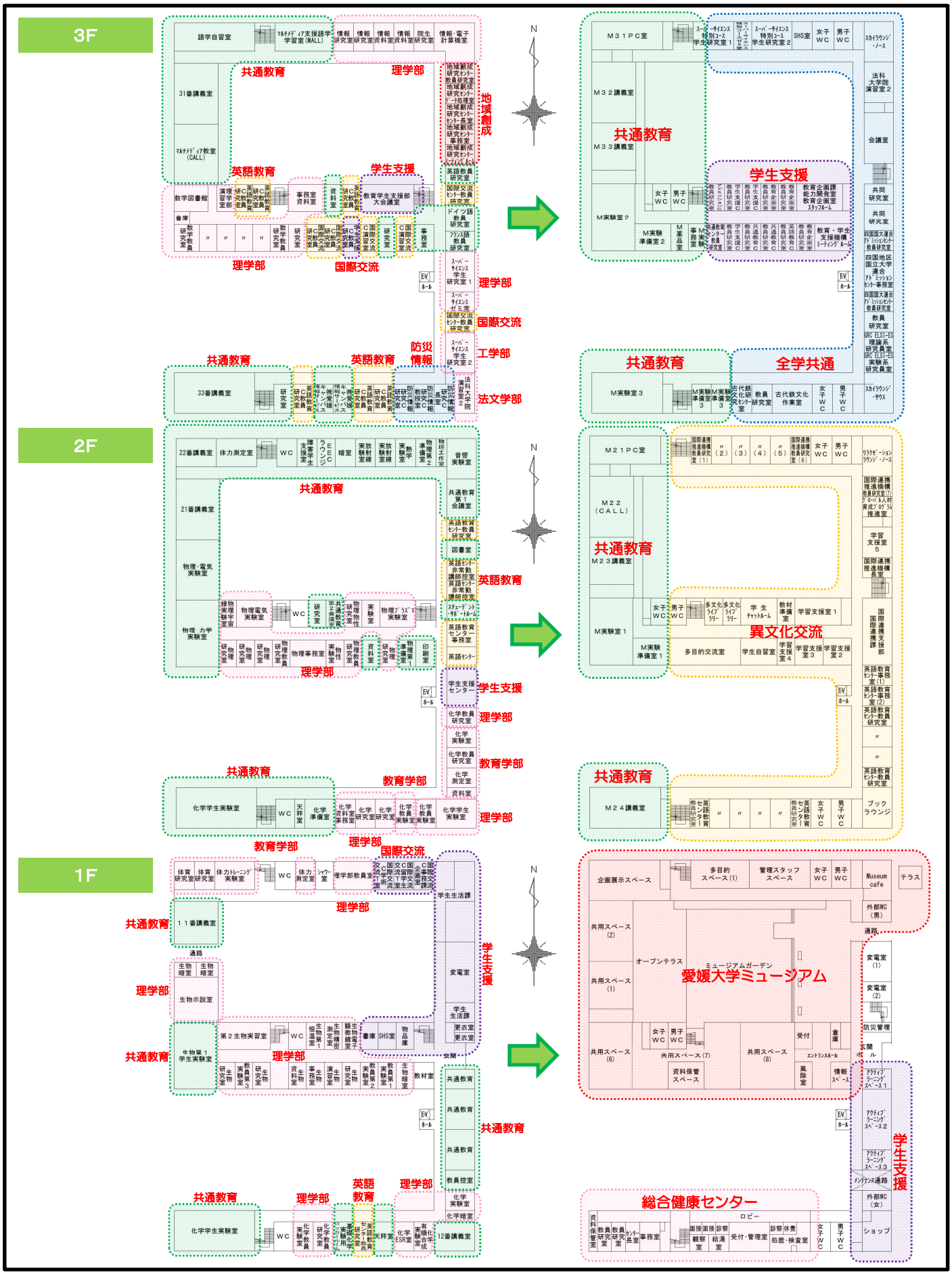
愛媛大学ミュージアム

Before



After




3F
2F
1F
N
共通教育
理学部
地域創成
学生支援
英語教育
国際交流
工学部
防災情報
法文学部
教育学部
異文化交流
愛媛大学ミュージアム
総合健康センター

施設整備の効果

○常設展示と企画展示

・地域の方々が気軽に足を向け、展示を楽しみながらゆったりと滞在できるように常設展示を行うとともに、来館者と大学スタッフとの知的交流の場となるように、企画展示スペースを設け、夏の「昆虫展」や秋の「あいだい博」などの人気の企画展を随時開催している。

「研究体験」風景

「昆虫展」ポスター

「あいだい博」風景

○利用の促進

・入館料は無料とし、学内、学外の区別なく見学することができる。隣接しているミュージアムカフェを設置しており、コーヒーや手作りのホットドッグやカレーライスなどの軽食ができる。

エントランスホール

カフェ

テラス

○来館者数、1万人突破

・ミュージアム開館以来、６カ月で来館者が１万人を突破（平成２２年５月）しており、メディアを用いた本学の学術研究成果の公開・発信の場を広げている。

○中庭を取り込む

・あまり利用されていなかった中庭をミュージアムの中に取り込み、緑化（芝生広場）の整備を行い、心安らぐ景観の形成を図るとともに、各種イベント広場としても活用。

整備前　中庭

ミュージアムガーデン